

研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

心不全入院患者の薬物治療の実態調査および薬剤管理サマリーの影響

1. 研究の対象および研究対象期間

2021 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日に昭和医科大学江東豊洲病院循環器内科に心不全のため入院された患者さん

2. 研究目的・方法

心不全とは、様々な原因で心臓の機能が低下し、呼吸苦や浮腫など症状の増悪を繰り返すことで心臓の機能が衰え、生命を縮める病気です。心不全は死亡率や再入院率が高く、早期から適切な薬物治療を行っていくことが重要です。薬物治療は、心臓の機能を助けたり、心臓への負担を軽減するために、数種類の内服薬を組み合わせで行います。しかしながら、腎臓の機能が低下していたり、血圧が低いために薬剤を組み合わせ使用しにくい患者さんもあります。薬剤を使用していない理由について薬剤師が医師や看護師と情報共有を行い、薬剤の追加方法を提案することで、より良い治療につながる可能性があります。十分に実施できていません。また、当院における心不全治療薬の使用状況や再入院率の推移は十分に明らかになっていません。

また、入院中に薬剤の変更が行われることが多いため、長期的に薬剤を安全に使用し治療を継続するためには薬局薬剤師と病院薬剤師の連携が不可欠です。これまで、病院薬剤師が保険薬局へ入院中での薬物治療の変更についての情報伝達は、お薬手帳を介する方法が一般的でした。薬剤管理サマリーとは、病院薬剤師がかかりつけ薬局や医療機関に対して直接お渡ししている情報共有ツールとして推奨されていますが、いまだ多くの病院で活用できていない現状にあります。薬剤管理サマリーの有用性について評価されたものはいまだ少ないため、当院で活用している薬剤管理サマリーを分析し、有用性について検討を行います。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2028 年 3 月 31 日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、入院前使用薬剤、退院時使用薬剤、薬剤管理サマリー返書件数、返書内容、患者転帰、薬物治療の効果・副作用、

検査所見：入院時、退院時の体重、バイタルサイン(血圧、心拍数、SpO2、酸素需要)、Hb、Cre、BUN、eGFR、Alb、Na、K、BNP、NT-proBNP

心エコー：大動脈径（AOD）、左房径（LAD）、左室駆出率（LVEF）、左室拡張末期容積（LVEDV）、左室収縮期容積（LVESV）、左室拡張末期径（LVDd）、左室収縮末期径（LVDs）、左室中隔厚拡張期径（IVSth）、左室下壁厚拡張期径（LVPWth）、拡張末期容積（EDV）、収縮末期容積（ESV）、一回拍出量（SV）、左房容積（LAV）、左房容量係数（LAVI）、下大静脈径（IVC）、拡張早期波（E）、心房収縮期波（A）、E/A、E 波減衰時間（DcT）、三尖弁逆流圧格差（TRPG）、右室収縮期圧（RVSP）、 e' 、 E/e' 、（PR edPG）

5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません

6. 研究組織

研究責任者	昭和医科大学江東豊洲病院	岩崎 恵里佳
研究分担者	昭和医科大学江東豊洲病院	喜田 昌記
	昭和医科大学江東豊洲病院	伊藤 朱里
	昭和医科大学江東豊洲病院	石津 剛志
	昭和医科大学江東豊洲病院	柏原 由佳

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学江東豊洲病院 薬剤部 氏名：岩崎恵里佳

住所：東京都江東区豊洲5丁目1-3 8 電話番号：03-6204-6389